

デジタル
一歩一歩
学校現場のICT

横手市の横手清陵学院高校で7月16日、1年生の「製図」の授業が行われた。機械などの部品の製造に必要な図面の読み方や描き方を学び、図面を複製する力を身に付けるものだ。

この日は1年4組の28人が、タブレット端末を使いながら部品の内部構造が分かる断面図の複製に取り組んだ。

断面図にしたのは、ドアノブのような形の部品。生徒一人一人の端末には、この部品をさらに細かく切り取った立体画像が映し出された。生徒は画像を指

横手清陵学院高校(横手市)

立体把握の手助けに

製図にタブレット活用



工業系科目を学ぶ横手清陵学院高校では、製図の授業でタブレット端末を活用している

で動かし、さまざまな角度から部品を観察。テキストに断面図を描き込んでいった。

授業を担当した齊藤風馬教諭は、製図を学習する上で「タブレット端末の存在は大きい」と語る。端末を使うことで、画面上の物体を自由に拡大したり、回転させたりできるから、「製図で大切なのは想像力。断面図を描く場合には空間認識能力が問われる。端末によって立体をイメージしやすくなり、学習の手助けになる」

授業を受けた平塚啓輔さん(15)は「端末の中ではさまざまな角度から物体を見るとができるので、いろいろな気付きがある。思ったようにいかない時は、不安の解消にもつながる」と振り返った。

同校は、ゲーグルのアプリを活用することで授業用テキストをどこでも見られるようにしている。生徒は自宅にいてもスマートフォンを使って製図の復習をすることが可能だ。「難しい授業でも、学校外で自主的に学習ができる。ICT(情報通信技術)を取り入れる意義は、十分にあると感じています」と齊藤教諭。

ICTの活用は授業だけでなく、校内のWi-Fi(ワイファイ)整備を完了。部活動の壮行会や全校集会などで生徒が密集する状態を生み出さないよう、体育館の中継授業を専教室で視聴する形を取っている。新型コロナウイルスの影響もあり、ICTの用途は広がっている。

〈随時掲載〉

画面を拡大して学習する生徒